

倒産集計**信用交換所京都本社****11年6月繊維倒産****倒産件数・負債額ともに減少****▼全国▲ 発生件数=38件 負債額=106億600万円**

2011年(平成23年)6月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)は38件。前月比で18件(32.1%)、前年同月比で6件(13.6%)減少した。

負債額は106億600万円で、前月比134億5600万円(55.9%)、前年同月比163億3000万円(60.6%)とそれぞれ大幅に減少した。

負債額が10億円以上の大型倒産は(株)ニッセン(大阪府羽曳野市、植毛織物製造、負債額17億円)1社のみで、同3億円以上の倒産もボン・ロード(株)(東京都中央区、紳士服地・紳士服卸、同9億8900万円)、吉原紡織(株)(愛知県津島市、毛織物製造、同9億7300万円)、(株)ちぐさ(高知市、かばん・袋物・婦人服小売ほか、同8億円)ほか計9社にとどまった。同9社で負債額全体の約70%を占め、依然小口の倒産が大勢を占めている。

東日本大震災から3か月が経過し、自粛ムードは徐々に薄れており、東北地区では復興消費(買い換え需要)も拡大するなど消費マインドは回復傾向にある。しかし、衣料品、特に高額品に対するの購買意欲は慎重姿勢がうかがわれ、百貨店の衣料品売上高は震災以降、依然として前年割れの推移にある。他方、セーフティネットの拡充や各種復興支援によって資金繰りが緩和された先も多く、全体としてみれば企業倒産は小康状態で推移している。

しかしながら、震災後の小売段階での不振が川中・川上企業に影響しており、売上不足によって企業体力を削がれ、ギリ貧に陥る先が散見されている。また一方では、依然として中国コスト、原料価格はともに高含みで推移しており、生産面の環境も厳しく、先行きの見通しは厳しい。

業種別では「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」が12件と最も多く、次いで「小売商」7件、「織物製造」6件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」5件、「寝具・インテリア製品製造卸」3件、「織物卸」2件、「染色整理・特殊加工」「呉服・和装製品製造卸」「その他」各1件。

原因別では「業績ギリ貧」が29件で全体の76%を占め、不況型倒産が高水準で推移している。以下「業況急変」5件、「融手連鎖」3件、「資金力薄弱」1件となった。

▼京都▲ 発生件数=0件(前年同月2件) 負債額=0円(前年同月2億4200万円)**▼滋賀▲ 発生件数=0件(前年同月0件) 負債額=0円(前年同月0円)**